

勇気ある行動が猫の命を救った話しです。

今年の夏は記録的な猛暑が続きました。

「暑さ寒さも彼岸まで」なんて通じない。

9月に入っても熱帯夜で疲労困憊(フウ～)

朝から太陽がざらざらと照りつけ散歩している犬達もいない。

9日朝8時ごろのことです。道端に猫がうずくまっている。

誰一人足を止めることもなく猫の横を通り過ぎる中、一人の男性が猫に手を差し出した。

「大丈夫？」

その声に猫は頭を持ち上げて、ふらふらしながらすり寄った。

「助けて～」

抱き上げられ猫はホッとしたのか腕の中で眠りに入った。

病院で治療を受けさせた後、自宅に連れて帰りバスタオルの上で休ませた。

猫は安心した顔ですやすやと寝息をたてている。(スヤスヤ……)

男性は猫の顔を見て思いました。こんなに人に慣れているし何とかしたい。

獣医からは

「大分、年がいつている猫だね。脱水症状が酷いからしばらく治療に来なさい。」

と言われ自宅は動物を飼えない環境だし友人・知人・親戚にまで電話で相談したけど解決策が見えない。

不安な気持ちでいっぱいになりました。

人間の行動ってこういう時に変わるんです。

「猫を助けてあげたい！」の想いでインターネットで検索したら……

「東中野二丁目地域ねこの会」有るじゃん！

思い切り自分の持っている不安な気持ちの相談メールを書きました。

男性と会との交信が始まりました。

そして手作りの「**迷い猫ポスター**」を近くの掲示板に貼りだすことにしました。



男性は見よう見まね店員さんに聞きながら猫の餌を購入しました。
猫のトイレになる容器を探し段ボールで猫の部屋づくりをして保護初日を終わりました。
毎日毎日病院に通院して保護猫の点滴治療を続けました。
目を開けない猫をみて思わず「がんばれよ！」と声をかけると保護された猫は薄眼を開けて男性
に応じて返事をします。ミュウ～
猫の為に何とかしてあげたいという想いが5日目に叶いました。
そうです。飼い主さんからの電話が入りました。
保護猫に向かって「飼い主さんが迎えに来るよ」と声を……

「幼い時に拾って育て16歳になるんです」と写真の記録を飼い主さんは男性に見せました。名前はアイちゃんと呼んでいるそうです。愛情いっぱい育てられとても可愛がられているんだと熱い気持ちになりました。
猫が飼い主さんに抱かれ甘えている姿をみたときにホッとした気持ちと寂しさが男性の心の中に広がっていました。
たった5日間の共同生活だったのに・・・猫との思い出が余りに大きくて。

男性の行動のお陰で飼い主さんと猫は再会できました。
飼い主さんは半ばあきらめていた心境のなかでポスターを見た時、あの感激はあの衝撃は、ずっと忘れない時間になるでしょう。
猫のアイちゃんも男性の手から伝わった温かさを忘れないでしょう。

「見ない・聞かない・言わない」のない箇条の社会で多くの人が見過ごし通り過ぎる世の中で、この男性の勇気が無ければ飼い主さんもアイちゃんも再会はできませんでした。
男性の体験は「自分以外の誰かの為に・何をどのようにしていく」という感動を我々にも与えて下さいました。
強い思いが良い結果に繋がりました事を皆さんにお伝えします。
地域の中にこんな心配りの有る人がいるんだという事を嬉しく思いました。

あなたにも出来る行動ではありませんか。
自分以外の誰かの為に何かを見出して手を差し伸べる勇気を出して下さい
誰もが心をひとつにして一緒に頑張れば良い結果がみえてきます。
今日からは無関心な心にさよならしてみませんか！
今回の相談者に感謝申し上げます。



管理人 あすなるより